

行田市公共施設等総合管理計画との関係

○ 保有量の見直し

学校の再編成により閉校となる校舎等の施設については、「行田市公共施設等総合管理計画」の推進方針に基づき、処分や活用を検討することとなりますが、学校を他分野の施設と複合化することによって、地域との交流促進、災害時の拠点、福祉環境の充実、子育て支援につながることが期待できます。そのため、空き教室の発生時や改修・改築時に、施設の複合化による有効利用について、関係法令との整合を図りながら保護者や地域等と検討します。

○ 運営管理の適正化

学校の維持管理・保全を図る上では、適正に運営管理ができるようコスト縮減に取り組む必要があります。学校施設の老朽化の状況を踏まえ、今後のランニングコストや維持修繕に係るコストを考慮し、より安価で質の高い教育環境を提供できるよう、維持管理や更新の手法等を検討します。

○ 学校施設跡地の活用に関すること

地域コミュニティ拠点及び防災拠点であることから、地域の方々の活動の場としての活用を最優先し、地域の、市全体の活性化・発展のために有効な活用方法を検討します。

放課後子ども教室などにおいて地域の児童生徒が現在の学校施設を利用できる方策のほか、部活動の練習で再編成前の旧小学校の施設を利用するなど、日常的に子供たちが地域で活動できる環境整備を検討します。

1 学校段階における不登校数について

別紙 2

- ・ 中学入学後、急に増加する訳ではないが、中学校生活における人間関係が原因の一つと考えられる。また、学年が上がるにつれ、増加傾向にある。

	小学6年	中学1年	中学2年
H28	1	14	23
H29	4	13	22
H30	2	5	16

(年度末時点、H30のみ7/31)

※不登校とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるために、断続又は継続して年間30日以上欠席した者（「病気」や「経済的な理由」、「家庭の事情」を除く）

2 学習意欲の低下について

- ・ 県学力・学習状況調査「勉強する理由について・・・勉強することが楽しい、好きだから」の設問に対し、「1当てはまる」及び「2どちらかと言えば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合が減少している。

	小学6年	中学1年	中学2年
H28	70.0	70.9	46.9
H29	70.3	69.5	45.4
H30	70.3	64.5	42.9

(毎年4月実施)